

第7回 協働のまちづくり推進委員会 結果概要

1. 開催日時・場所

平成 28 年 3 月 23 日（水）18 時 30 分から 20 時 30 分
市庁別館 2 階 会議室 B

2. 出席者

委員：北向秀幸委員長、佐藤博幸副委員長、浮木隆委員、江刺家一弘委員、
五戸保夫委員、齊藤綾美委員、田頭順子委員
事務局：市民連携推進課（4 名）

3. 会議概要

- (1) 平成 28 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査
 - ・平成 28 年度「元気な八戸づくり」市民奨励金の応募事業について、仮採点の結果をもとに意見交換を実施。
 - ・意見交換をもとに、4 月 16 日開催の公開ヒアリング審査会における質問事項を確認。
- (2) 平成 27 年度 市民提案制度 市設定テーマの経過報告
 - ・3 月 23 日、観光ネットワーク構築事業のパートナー協定調印式を実施し、市とはちのへ観光ネットワークの間で協定を締結したことを報告
- (3) 平成 28 年度 市民提案制度 市設定テーマの募集結果について
 - ・平成 28 年度の市設定テーマについて庁内募集をしたところ、建築住宅課から「地域連携型 空き家流通促進事業」の応募が 1 件あったことを報告。
- (4) 平成 28 年度 協働のまちづくりの推進にかかる事業について
 - ・「協働のまちづくりの推進にかかる事業」の平成 28 年度の予算、取組の方向性について説明。

4. 今後のスケジュールについて

■ 今後のスケジュール

- ・平成 28 年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会
日時 4 月 16 日（土）13 時 30 分～
場所 市庁別館 2 階 会議室 C
- ・平成 27 年度 市民奨励金事業の評価
時期 5 月上旬
※評価方法の変更案について、別添資料に基づき説明。事務局案について、報酬の支払い等を確認のうえ、改めて委員の意向を確認することとした。
- ・平成 27 年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」
日時 5 月 28 日（土）13 時～
場所 八戸ポータルミュージアムはっち 1 階はっちひろば

※ 詳細は議事録参照。

第7回 協働のまちづくり推進委員会 (平成28年度市民奨励金対象事業書類審査会)

日時 平成28年3月23日(水) 18時30分から20時30分まで
場所 市庁別館2階 会議室B

次 第

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 案 件
 - (1) 平成28年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査
 - (2) 平成27年度 市民提案制度 市設定テーマの経過報告
 - (3) 平成28年度 市民提案制度 市設定テーマの募集結果について
 - (4) 平成28年度 協働のまちづくりの推進にかかる事業について
4. その他
 - ・今後のスケジュールについて
5. 閉 会

次第1. 開会

(司会：事務局)

次第2. 委員長あいさつ

(北向委員長あいさつ)

次第3. 案件

案件(1) 平成28年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査

- 事務局より、以下の事項について確認。
 - ・審査基準の確認
 - ・応募状況と審査不参加委員の確認（まちづくり支援コース「八戸地域社会研究会」に
関係している委員については、当該団体の審査は不参加。）
- 平成28年度市民奨励金 応募事業に対する書類審査結果をまとめた資料に基づき、事務局よりポイントを絞って説明。
- 平成28年度市民奨励金 応募事業（まちづくり支援コース8件）について、それぞれ仮採点の上位団体から順に意見交換を実施。
- 意見交換をもとに、市民奨励金公開ヒアリング審査会(4/16開催)における質問事項を確認。

■委員長

- ・それでは書類審査へ入る前に、本日の会議の趣旨をご説明します。
- ・本日は事前に選考いただいた結果と理由をもとに案件ごとに意見交換を行い、4月16日に開催される公開ヒアリング審査会に向けて情報共有を図ることを目的としています。
- ・また、本日の意見交換の中で質問事項が挙げられた場合には、ヒアリング審査会の前に応募団体に情報提供することとしていますので、各委員からの質問事項のとりまとめを

行います。この2つが今日の会議の趣旨となります。

- ・意見交換については、仮採点の上位の団体から順にしていきたいと考えています。先ほど事務局から説明がありましたとおり、獲得平均点が概ね7割以上というのが奨励金を交付する一つの基準になっています。
- ・それでは、仮採点第1位の八戸緩和ケアを考える会の『緩和ケアのカフェ「もりカフェ in 類家」開設事業』について、事務局より説明いただきたいと思います。

仮採点1位 八戸緩和ケアを考える会 ／緩和ケアのカフェ「もりカフェ in 類家」開設事業

■事務局

- ・当該団体は平成23年度及び平成24年度に初動期支援コースの交付を受けた団体で、まちづくり支援コースへの応募は初めてとなっています。
- ・プラス評価の意見として、
 - 緩和ケアについての学習や市民への啓発などを行ってきた団体が、拠点を設けて相談窓口の開設や居場所づくりを進めるもので、新たな展開につながる。
 - 悩みを抱える人に対して気軽に立ち寄ることができる場所を提供するもので、地域社会に貢献する事業となっている。
 - 少子高齢社会の中で必要性を強く感じる事業である。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 事業の効果がより現れるよう広報の仕方に工夫が必要ではないか。ということが挙げられております。
- ・質問項目としては、
 - 奨励金が施設の使用料に充てられていることから、次年度以降どのように対応することを考えているか。
 - 相談件数の実績など、市民のニーズについて伺いたい。といった質問が挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- ・質問事項で出ているとおり、予算的には施設の賃借料の金額が大きくなっています。今回は奨励金から1年分の家賃を支出するかたちで応募いただいているわけですがけれども、助成期間終了後にどうされるのかということは課題になると思います。
- ・助成期間終了後の方向性を検討していないと、継続した取組が難しくなると思いますので、会員を増やす、会費を増やすなど、収支における団体の今後の方向性が示されると良いかと思います。
- ・団体の収支を確認しますと、今までは事務所の賃借料は支出されておりません。
- ・現在、団体を設立して何年でしょう。奨励金が交付されない場合は規模を縮小して実施されるということですが、既に場所は借りていらっしゃるのでしょうか、これから借りるのでしょうか。

■事務局

- ・団体の事務所自体は代表者の自宅となっておりますので、賃借料はありません。
- ・今回提案がありましたもりカフェは類家のシェアハウスの一角となっております、今年の2月から開設しております。

■委員

- ・委員長がおっしゃったとおりなのですが、来年度以降、本当に事業を継続できるのかという点で不安があります。
- ・規模を拡大したのはいいのですが、運営資金がなくなって継続できないという状況にならないかと思っています。取組自体は大変良いことですし、応援したいという気持ちですが、この奨励金がずっと交付されるわけではないので、助成期間終了後、賃借料

18万円はどのように捻出しようとしているのかが不安な点になります。

■委員長

- ・それでは、助成期間終了後の対応については、委員会としての考え方をお伝えし、質問して方向性をお伺いしたいと思います。
- ・ほかに質問は特に出していませんので、次の事業に移りたいと思います。
- ・それでは、仮採点第2位の八戸童話会の『スピードラーニング南部弁 CD 作成事業』について、事務局より説明いただきたいと思います。

仮採点2位 八戸童話会
／スピードラーニング南部弁 CD 作成事業

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 大正13年の設立以来、児童文化活動に取り組んできた団体であり、提案事業は子どもから大人までを対象とした事業で新たな発展につながるものと思う。
 - 興味深い取組となっており、市内にとどまらない貢献が期待できる。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 現在の団体の活動との関連性について伺いたい。
 - 子どもたちに動機づけするためには、語り部が子どもたちと直接話をする必要があると思うが、CDをどのように活用するのか伺いたい。といった質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 学校への出張授業は継続し、積極的に学校に働きかけて欲しい。
 - 地域の子ども会と連携してはどうか。といったことが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- ・方言のCDを実際に作成して販売されている事例があるのだなと思い、提案書を拝見しておりました。
- ・CDをつくって、それから配布までの事業となっております。資料として残るのは良いことだと思いますが、CD作成後、団体としてどのようにCDを活用していくのかという点については、今回の提案事業の中では触れられておりませんでしたので、作成後にどのように活用されるのかという点が気になります。
- ・設立されてから長い団体ですので、どこかの場面で活用されると思うのですが、今回の事業に対するニーズが今ひとつわからないでおります。
- ・ですから、資料としてCDを作成されてどのように活用されるかということと、CDを配布するだけで期待される効果が得られるものかということについて、お伺いしたいと考えております。

■委員

- ・CDを提供される立場の方が、提供されるということを知っているのかというところが疑問に感じていました。
- ・配布先として考えられている小中学校や大学などに事前にある程度話ができればいいと思うのですが、急にCDが送られてきて、どのように活用すればよいかと戸惑わなければいいと考えています。

■委員長

- ・事業内容の欄に「小学校への出張授業『南部弁、南部昔コを楽しもう！』で、このCDを子どもたちへの動機づけ、興味づけに活用したい。」と記載されていますが、実際に活動はされているのでしょうか。

■委員

- ・何校かは行っているみたいですね。出張授業の取組を継続していただいて、その輪を広げてほしいという思いがあります。
- ・せっかく CD をつくって学校に送っても、実際にはなかなか活用されないのではないかと気がしています。ですから、CD を贈呈することとあわせて出張授業を実施し、子どもたちの中に入っていった意識を変えながら、普段の会話の中でうまく利用してもらえるようになればと思います。
- ・続けることと輪を広げることが、さらに南部弁のおもしろさを広げていくのではないかと気がします。

■委員長

- ・実際、森のおとぎ会や南部昔コで、南部弁の継承などに取り組んでいるわけではありませんよね。会の趣旨とは少し違いますから。
- ・南部昔コを語れる方が増えるように、また昔コのレパートリーを増やすことができるようにデータベースとして必要なものを保存して伝えていこうということであれば、意味があるものと思っています。
- ・八戸童話会は南部弁の継承に特化した団体ではなく、童話や音楽、人形劇等の児童文化の研究実演を通じて児童に健全な遊びを与えることなどを目的とした団体ですから、今回、なぜ南部弁を伝えていくことに取り組もうと思われたのか、その理由・きっかけについてお伺いしたいと考えています。

■事務局

- ・会の主な活動としますと森のおとぎ会になりますので、委員長のお話のとおり方言というよりは昔話のほうがメインとなります。

■委員長

- ・南部弁が実際にデータベースとして残っているかということ、研究者に取り組んでいただかないとなかなか残らないと思っておりまして、CD の形で口述としてきちんと残していただけるのは意味があることだと考えています。
- ・八戸童話会の会員の方や会員以外の方が、南部弁を話すことができるようにするための道具として CD を使おうということであれば意味があると思います。
- ・実際こういうものは残しておかないと薄れてしまうので、今までそういうものがなかったのかと気になっていました。これまでの南部弁継承の取組状況をご存知であれば、そういうことも質問としてお聞きしたいと考えています。

■委員

- ・作成した CD を配布するというので、配布先として市内の保育所なども記載されていますが、配布ただけで普及につながるかは疑問に思っています。
- ・私も『りんぐりんぐ』という情報誌の発行を通じて、団体の活動の PR や地域における国際交流活動の PR に取り組んでいます。
- ・情報誌は小学校などに送付しておりまして、興味がある先生方には御覧いただいていると思いますが、それ以外の先生方には御覧いただけていないのではないかと心配もあります。
- ・私自身の経験から、今回の事業のように CD をたくさんつくって配布することが、普及につながるのかという部分については不安があります。ですから、今回作成する CD を方言に本当に興味がある人たちに配布した方が活用率も上がるのではないかと思いますし、お金の使い方としても有効なのではないかと思います。
- ・保育所も 74 箇所とすごい数があります。作成した CD を有効に活用するために、配付先についてはもう少し検討したほうがいいのではないかと思います。

■委員

- ・〇〇委員と同感です。
- ・CD を配布するだけでなく、CD を活用して南部弁を普及するためのイベントなどに取り組まないといけないのではないかと思います。
- ・ただ学校に CD を送っても、校長先生の考え一つで方言の普及に取り組んでももらえないということは考えられます。また、授業の時間を割いて取り組むとしてもいろいろ問題も

あるかと思えます。

- ・八戸童話会自身が、積極的に南部弁の普及のためのイベントに取り組まなければCDの作成・配布はあまり意味がないのではないかと考えています。

■委員

- ・例えば、八戸童話会の会長以外にも南部弁を正しく伝えられる人材を増やして、子どもたちに直接、生の声で語り掛けたほうが、より大きな効果を得られるのではないかと思います。

■委員長

- ・私としては、CDを道具として使ってもらうのはいいと思っていますが、南部弁を話すことができる人が増えないと、伝えていくということは厳しいだろうと思っています。歴史が長い団体なので、普及・啓発のための取組ももちろん考えていらっしゃると思いますが、審査会の際にはお伺いしておきたいと考えています。
- ・それでは、仮採点第3位の八戸地域社会研究会の『若年層世代の地元就業率を高めるための職業観等の意識調査と課題』について、事務局より説明いただきたいと思っています。

仮採点3位 八戸地域社会研究会

／若年層世代の地元就業率を高めるための職業観等の意識調査と課題

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 地域における若者の職業観を調査するものであることから、結果が地域へ還元されることにより地域社会へ貢献できる事業である。
 - これまでの調査実績もあることから、団体の専門性を活かした事業である。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 地域における雇用と若者の希望のミスマッチについては、企業の採用担当者や教育機関、若者もある程度認識しているのではないか。
 - 最終的に、調査結果を誰に報告、フィードバックしようとしているのかが不明。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 本事業は定量的な内容だけではなく、定性的な内容も含まれるものと感じているが、どのようにまとめられる方針であるかを伺いたい。という質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 地域企業を対象としたニーズ調査に「八戸に今必要な人材は！」という視点を入れてはどうか。というものが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っています。

■委員

- ・意識調査の対象に「市外に進学した大学生」も含まれていたと思います。地元の高校や大学、専門学校は調査しやすいと思うのですが、市外に進学した大学生にはどのように調査を実施するのか、アプローチするのかと疑問に思っています。

■委員長

- ・今回提案がありました意識調査は、将来、若者が地域にとどまってくれるのか、または戻ってきてくれるのかという現在の状況を調査したいというものだと理解しています。アンケート調査という手段だけで十分に把握することができるかというところについては、個人的には不安を抱いております。
- ・個人的には、若者の地域への定着を促進するために、地域に興味・関心を持つきっかけとなる機会や場を設ける取組をしていただきたいと思います。そのような取組

は教育機関や地元を良く知る関係機関が取り組むといいと考えています。

- ・八戸市では学生まちづくり助成金制度を実施しています。先々週、助成金を活用した事業の活動報告会である「学生まちづくりコンペティション」が開催されまして、私と〇〇委員が参加させてもらいました。
- ・そのような意味では、学生まちづくり助成金制度は若者が地域に興味を持つきっかけ、機会になると考えています。
- ・私の学生時代の話になりますが、私のクラスは7割以上が東京や仙台に進学等で八戸から出て行きました。最終的に地元に戻ってくるかどうかというところですが、同窓会の様子を見ると、半分くらいが戻ってきていると思います。
- ・今回の意識調査が単なる意識調査だけで終わるのか、地域に興味を持ってもらうためのひとつの手段としてアンケートを用いるのかというところは伺いたいと思っています。

■委員

- ・アンケートはどのように実施されるのでしょうか。ばらまくイメージでしょうか。

■委員長

- ・提案書にははっきり書かれておりませんね。

■委員

- ・うちの大学の学生を対象にアンケートを実施してもそうなのですが、あまり効果的なアンケートとならないことがあります。

■委員長

- ・アンケートは結構実施していらっしゃる団体ですよ。昨年度も応募いただいておりますし。

■委員

- ・調査方法は工夫されているのでしょうか。

■委員長

- ・そうだと思います。

■委員

- ・調査・研究を通して地域社会に貢献することを目的とした団体ですが、調査のテーマは異なるにしても、昨年度応募されて、今年度も応募というところで少し取扱いに悩む部分があると感じています。

■委員

- ・どのようなアンケートテーマを設定し、対象・ターゲットをどのような方たちにするのかというところで、私は毎年興味を持って見えています。
- ・皆さんがおっしゃるとおり、行政なり企業なりにどのような形でアンケート調査の結果が還元されるのか。その辺が提案書から読み取ることができません。

■委員

- ・毎年テーマが変わっているということから、1つのテーマを追求しているという感じではありません。何かアンケートを実施するだけで終わってしまっているような印象を受けてしまいます。

■委員長

- ・団体の概要書を拝見しますと、前回からだいぶ間が開いてしまっはおりますけど、平成27年にフォーラムを開催されています。
- ・アンケート調査を実施されたあと、このような活動につなげていかれることを考えていらっしゃるのであればいいと思いますが、アンケート調査実施後の取組の方向性については、質問したいと思います。

■委員

- ・アンケート調査実施後の取組が期待される場所ではありますので、どのような回答をいただくかが重要だと思います。

■委員長

- ・あとは、先ほどの〇〇委員の意見にもありましたとおり、アンケートの実施方法についても確認したいと思います。

■委員

- ・私も今回の提案事業の全てを把握しているわけではありませんが、今回の事業の背景には、同会の会員の30代のメンバーが、昨今の若者の地域からの流出はなぜなのかという部分に疑問をいただいていたことがあります。
- ・青森県も若者の定着促進に取り組み始めましたが、同会にも同じような思いを持つメンバーがおりまして、学生の皆さんが地元企業に就職し、八戸に残ることができるようにどんなことを求めているか。また地元企業の方々が、どんな人材を求めているかということアンケート調査によりまとめたいということで今回の企画になりました。今回1回で終わるものではない課題だと考えています。
- ・市内の学生はもちろんですが、市外に進学された学生の皆さんの意識調査は、八戸市から出て行く理由を知るためには必須だと考えています。会員の中には様々な方面にコネクションを持つ者もおりますので、出身大学などに依頼し、県外の大学でもアンケートを実施するという方向性であることを聞いていました。
- ・また、アンケート結果の分析につきましてもプロ級のメンバーがおりますので、ただアンケート調査を実施して終わりということではなく、行政や企業等の今後の取組の基礎資料となるものができるのではないかと考えています。

■委員長

- ・審査会のときに直接お話しは伺おうと思いますが、〇〇委員から補足のよう形でご説明いただきました。
- ・アンケートの実施方法や調査結果がどのように還元されていくのかという部分がヒアリング審査で明確になると、より採点がしやすくなるのではないかと思いますので、審査の際にお伺いしたいと思います。
- ・それでは、仮採点第4位の八戸ジュニア・オーケストラの『八戸ジュニア・オーケストラ<グリーンコンサート>』について事務局より説明いただきたいと思います。

仮採点4位 八戸ジュニア・オーケストラ ／八戸ジュニア・オーケストラ<グリーンコンサート>

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 市民オーケストラやジュニア・オーケストラの活動を充実させるためには、演奏会の機会を増やし、技術の向上を図ることが大切だと思うので、期待できる取組である。
 - ジュニア・オーケストラの日ごろの活動の周知にもつながる事業である。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - クラシック音楽を身近に感じられるよう企画された事業で、団体のPRにもつながる事業であると思うが、演奏活動に参加する青少年の増加につながるかは疑問。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 技術の向上を図るための指導体制について伺いたい。という質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 市民が親しんでいるポピュラーなクラシックを演奏してはどうか。
 - ポスター制作など、広報に少し力をいれてはどうか。というものが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- ・団体としては、現在は定期演奏会を年に1回開催している状況となっています。

■委員

- ・事業計画に目的が4つ記載されていますが、一番達成したい目的は発表の場を増やすということなのでしょうか。

- ・裾野を広げる等々記載があるのですが、発表回数を増やしたいという部分が本事業の主となる部分であるという印象を受けました。わずかとはいえ、クラシック音楽に触れることで裾野が広がるという効果は得られるとは思いますが、発展性という点では疑問に思うところがあります。

■委員

- ・今回の事業では、あえて小さい会場を選んで企画しているようですね。より身近に感じてもらおう効果を狙っておられるのかと思います。

■委員長

- ・私も中学・高校と吹奏楽部でしたのでわかるのですが、企画提案書にも記載されていたとおり、管弦楽に触れる機会というのは非常に限定されております。
- ・現在、定期演奏会を年に1回開催している状況となっておりますので、管弦楽に触れる機会をつくるため、大きい会場ではなく小さい会場で演奏会を開催するというのは、個人的にはありだと考えています。

■委員

- ・予算書の中に会費収入12万9,000円とあります。この12万9,000円はどこから来るのでしょうか。
- ・平成27年度の団体の収支中間報告書では、年会費の予算額が52万8,000円となっております。平成28年度の団体の収支予算書では、会員一人当たりの年会費が2万4,000円と出てきます。
- ・この金額と会費収入の12万9,000円はどのような関係性にあるのでしょうか。

■事務局

- ・奨励金で不足する部分を団体の自己資金で補うということになります。

■委員長

- ・個人的に存じ上げている方がこの団体にはいらっしゃいますが、団体の活動としては規模が大きいです。

■委員

- ・会場は無料で使えるのでしょうか。事業収支予算書には、会場使用料が計上されておられません。

■委員長

- ・今回は、デーリー東北ホールを無料で使うことができるようですね。恐らく、入場料が無料の演奏会ですので、無料で会場を使用できるということかと思います。
- ・先ほどお話がありました事業収支予算書に記載がある「会費収入」につきましては、少しわかりにくいところがありますので、ヒアリング審査会の際にご説明いただきたいと思います。
- ・あとは、東京ではコンパクトな会場での演奏会は結構開催されていると思いますが、八戸の方はあまり慣れていらっしゃらないと思います。コンパクトな会場で演奏会が開催されている事例をご紹介いただき、管弦楽の世界ではあり得る事例であるということをご説明いただけるといいと思います。

■委員

- ・事業収支予算書の通信運搬費が楽器等の運搬という内容の割に金額が安いですが、このくらいの金額で済むものなのでしょうか。また、楽器は高価なものが多いと思いますが、保険料などは必要ないのでしょうか。

■委員長

- ・恐らく軽トラックで運搬しなければいけないような楽器は比較的大きなものだけで、あとは個人個人が会場へ持っていくものだと思います。管弦楽ですからほとんどの楽器は手に持って歩くことができますし、その関係で想像するよりも予算が抑えられているでしょう。
- ・20名の編成ですから、大きな楽器も4台くらいかと思いますので、軽トラック1台で問題はないかと思います。
- ・それでは仮採点第5位の八戸ノルディック・ウォーク倶楽部の『ノルディック・ウォークの普及で、健康寿命の延伸と元気な街づくりを目指す。』について、事務局より説明

いただきたいと思います。

仮採点5位 八戸ノルディック・ウォーク倶楽部

ノルディック・ウォークの普及で、健康寿命の延伸と元気なまちづくりを目指す。

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 参加者が少しずつ増えてきており、ホームページ等を利用して情報発信することで、一層参加者が増加することが期待できる。
 - 八戸市民の健康の保持・増進につながることを期待される。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 団体の目的は理解できるものの、同人会的なつながりにとどまると幅広い市民への貢献という点では難が感じられる。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 参加料を無料としているが、保険には加入しないのか。
 - 初動期支援コースの対象とはならないのか。という質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 予算の多くを用具の購入費用が占めていることから、普及活動における用具の必要性について説明があればよい。というものが挙げられております。
- ・なお、質問事項にありました保険への加入について確認したところ、保険には加入する方向で検討しているとの回答がありました。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- ・現在、どのように団体の活動をPRされていますでしょうか。

■事務局

- ・3月初めにホームページを立ち上げています。
- ・ホームページの開設以前は、デーリー東北のお知らせ欄に体験会の実施について定期的に掲載していたとのことでした。

■委員長

- ・体験会をするためには用具類が不足していることが団体の一番の課題であるため、奨励金に応募されたという認識でよろしいでしょうか。

■事務局

- ・こちらの団体につきましては、設立から5年以内の団体であるため初動期支援コースの対象にもなりますが、予算的な面から、初動期支援コースではなく、まちづくり支援コースに応募されております。

■委員

- ・素朴な質問ですが、体験会の参加者に団体のメンバーは含まれるのでしょうか。
- ・体験会の参加記録が添付されておりますが、メンバー以外の参加者が増えてきているのか疑問に思ったのですが、もしわかれば教えていただけますか。

■事務局

- ・体験会の参加者が会員になってきているということです。
- ・体験された皆さん全てが会員になっているわけではありませんが、多くの方が体験したあとに倶楽部に入会されているそうです。

■委員

- ・参加者の年齢層はどのくらいでしょうか。体験会を開催している時間帯などからは、比較的時間が自由になる方が多い気がしますが。

■事務局

- ・ご年配の方が多いようです。

■委員

- ・先日テレビを見ていたら、隣県で類似の団体が立ち上がって、盛んにPRしているという報道がありました。

■委員

- ・収支予算を見ると、レンタル用ポールの購入費が大半を占めており、すごい金額だと感じています。

■委員

- ・初動期支援コースに応募される団体に近いような感じがします。
- ・用具を体験会の参加者に貸し出すことにより、会員を増やそうという考えなのかと思いますが、20セット必要な理由が示されていません。

■委員長

- ・実績でしょうね。

■委員

- ・私も実績から20セット必要だということかと思ったのですが、これまでの体験会の開催実績をみると45回で394人となっています。単純に平均すると1回の体験会あたり8.7人の参加で、10人参加していない状況です。
- ・今後参加者を増やしたいということなのだと推察はできますが。

■事務局

- ・現在、レンタル用の用具は10セット用意されているそうです。

■委員

- ・会員の人でも用具を持っていない方がいらっしゃるのでしょうか。

■事務局

- ・そのような方もいらっしゃるそうです。

■委員

- ・どなたかも意見として出されていらっしゃいましたが、内輪の組織のような印象を受けます。体験会の開催回数を充実させて、体験した人に入会していただくことを期待しているのだと思いますが。

■委員長

- ・カタログを拝見しますとポールの単価は9,000円となっていますが、差額が生じた場合はどうなるのでしょうか。最後に精算するという点でよろしかったですか。

■事務局

- ・差額が生じた場合は返納していただくこととなります。

■委員

- ・ノルディック・ウォークについては、確かに最近流行ってきています。

■委員

- ・私も誘われたことがあります。
- ・公共の利益という観点から提案事業を見ると、少し首をかしげたくになります。

■委員

- ・いろんな地域を歩くということはおもしろい取組ではあると思います。

■委員長

- ・評価が分かれますね。
- ・この事業も仮採点では35点を超えておりますので、意見交換はここまでとさせていただいて、次に移らせていただきます。
- ・それでは、仮採点第6位の島守地区自治会連合会の『島守弁ミニ事典発行事業』について、事務局より説明いただきたいと思います。

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 島守地区自治会連合会は地域住民の親睦や文化的事業を実施してきており、「島守弁ミニ事典」の作成・出版により、地域の連帯感の強化が期待される。
 - ミニ事典の作成に多くの地域住民が協力してくれることに期待する。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 事業内容は評価するが、これまでの地域での活動との関係性について説明不足である。
 - 島守地区に限定した事業という印象。
 - 奨励金が不交付の場合は他の財源をみつけて実施したいという意向ではあるが、28年度の団体の予算として計上される予定であるかが不明。
 といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 事典を編集するスタッフの体制について伺いたい。
 - 事典をつくる必要性、島守弁の特徴や地域動向との関係性について伺いたい。
 - 事典作成後の活用方法や予定があれば伺いたい。
 - 事典の体裁や内容について例を示していただきたい。
 - 自治会連合会の中での役割分担や愛好的有志グループのメンバーについて伺いたい。
 - 販売先について伺いたい。
 - 発表会の開催回数や内容等について伺いたい。
 という質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 図書館等の施設と連携して、島守の歴史や名所旧跡をPRするコーナーを設けても良いのではないかと。
 - ホームページなどで情報発信することも検討してはどうか。
 というものが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。
- ・先ほど意見交換した南部弁と同様に、CDをつくるだけでは普及や継承は進まないというところでは。
- ・島守弁を後世に残したいということで、データベースとして保存するというのであればいいと思いますが、配布までするととなるとまた少し変わってきます。
- ・配布するところには島守弁を聞いてほしい、そしてともに残してほしいという思いがあると思います。そのような中で全戸配布するというところで、どれだけの効果が期待できるかというところは疑問です。同じ視点で活用してもらえるかというところがあります。それを使ってどうするのかという説明がほしいと思います。
- ・方言なので、人から人へ伝えないと難しいと思います。
- ・あとは実際に島守弁を使える「島守弁マスター」のような方が団体の中にいらっしゃるかどうかということも大事だと思います。そういう方をきちんと育てていきたいと思いますという活動が提案書には全くなくて、あつらえましょうという印象です。
- ・島守弁を残そうとすると人が実際に動かないと残すことができないという部分は、先ほどの南部弁の取組と通じる部分があると思います。事典作成後の取組が読み取れませんので、どのようにされる方針であるかが気になります。
- ・既に意見として資料に掲載されているものもありますが、意見への補足も含めて、ほかにもご意見をいただければと思います。

■委員

- ・学校などであれば、CDを配布しても使ってもらえる機会があるかと思うのですが、全戸配布して果たしてどれだけの人が使うのか、聞いてくれるかということだと思います。非常に難しいのではないかと思います。

- ・CDに限った話ではありませんが、町内に全戸配布したからといって、ほとんどの人が見ていないというケースもあるので、配布により期待される効果が得られるかという点で疑問があります。

■委員

- ・事業目的の欄を見ると、これまで収集した島守弁が約 2,000 語とあるので、既に収集作業を行っているという印象を受けるのですが、事業内容の欄では「島守弁を収集する」と記載がありますので、事業の進捗状況を確認したいと思います。

■委員

- ・CDをつくる予算はどの科目に計上されていますか。

■委員長

- ・冊子作成にかかる見積書は添付されていますが。

■事務局

- ・CD付きの冊子として、見積をとったそうです。

■委員

- ・島守弁を誰かが話したものを収録するのでしょうか。

■委員長

- ・そうだと思います。しかし、収録にかかる費用は見積書に入っていませんね。編集委員会だけで大丈夫なものでしょうか。先ほどの八戸童話会の予算書には収録にかかる費用が計上されていたのですが、事業の実施可能性に心配なところがありますね。

■委員

- ・音声ではなく、ミニ事典のデータを収録しただけのCDなのかもしれません。

■事務局

- ・CDには音声を収録されるというご説明をいただいており、見積りの中に音声を収録するための経費も含まれていると伺っておりました。

■委員

- ・島守地区の一部の人だけが島守弁を残すために何かやらなければいけないと盛り上がっているのか、地区全体として盛り上がってやろうとしているのか、その辺の状況がよくわかりません。

■委員長

- ・その点についても質問したいと思います。編集するスタッフ体制に関する質問も出ています。掲載内容に関する質問も出ていますね。
- ・あとは具体的に提案書には記載されておりませんが、全戸配布する考えはどこから出てきたのか。なぜ、全戸配布でなければならないのかというところですね。そこは質問させていただきたいと思います。

■委員

- ・言い方が悪いですが、記念誌のようなものを作成して終わりのようなイメージがあります。作成したものを活用して、どんな取組をしたいということがないと、作成して配布して終わりということになってしまいます。

■委員

- ・島守弁が廃れているから全戸に配りたいということしか提案書からは読み取ることができません。島守弁を伝えていくためには、これまで話してきたとおり、ミニ事典作成後の普及啓発を進める取組が必要になると思います。

■委員長

- ・そうですね。八戸童話会のほうは実際に既存の場がありますが、島守地区自治会連合会のほうはそのような場がないでしょうから、そのような場をつくる必要があるかと思います。
- ・島守弁のデータベースをつくるということには異論はないのですけれども、全戸配布することに関しては少し方向性が違うかなという感じがします。
- ・ほかにご意見がなければ、次の事業に進みたいと思います。
- ・それでは、仮採点第7位の八戸弓馬会の『誰でも挑戦！スポーツ流鏑馬』について事務局より説明いただきたいと思います。

仮採点7位 八戸弓馬会 ／誰でも挑戦！スポーツ流鏑馬

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 弓馬を市民へ普及させるための事業であり、団体の新たな発展につながる事業であると思う。
 - スポーツ流鏑馬を取り入れることにより、市民の関心が変わるかもしれない。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 十和田乗馬倶楽部から寄付を受けて流鏑馬大会を開催する事業となっており、今後の継続性について疑問が残る。
 - 借馬、運搬費に多額の経費を要していることから、継続して流鏑馬大会を開催することには無理を感じる。
 - 流鏑馬自体が珍しいことから、幅広い市民から賛同を得ることは難しいのではないかと。
 - ワークショップの開催などに係る告知方法に工夫が必要ではないかと。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 団体として初めて大会を開催するにあたり、奨励金の占める割合が高いことを心配しているが、不交付となった場合の財源の有無について伺いたい。
 - 大会開催に係る保険料は不要か。という質問が挙げられております。
- ・また、アドバイスとして、
 - 既に実績・知名度のある十和田乗馬倶楽部の規模拡大に集中したほうが良いと考えられる。というものが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。

■委員

- ・事業収入が10万円しかない中で、会場設営費だけで23万円を要することから、継続して開催することはできないのではないかと思います。
- ・事業を今後どのように継続していくかという点が不安に思います。1回大会を開催しただけで終わるといふことにはしてもらいたくないという気持ちです。

■委員長

- ・恐らく、団体の目的としては、スポーツ流鏑馬の普及を通じて、八戸市から櫛引八幡宮で行われている例大祭で射手を務められる人材を育成したいということなのでしょう。
- ・実際、なぜ八戸市には射手がいないのでしょうか。
十和田はなぜかスポーツ流鏑馬が広まっていますよね。申請書に書く内容ではないかもしれませんが、なぜ十和田市で広がっているかということを知りたいです。
- ・スポーツ流鏑馬を振興させたいという目的と、団体としての目的が少し合致していないように感じています。
- ・スポーツ流鏑馬を八戸市で広めたいということであれば、先ほどのノルディック・ウォークと通じるところが出てくるので、それはそれでいいかと思います。流鏑馬はなかなか裾野が広がりにくいスポーツだとは思いますが。
- ・それを歴史・文化的な面でも振興を図っていこうということであれば、目標がまただいぶ高くなってしまいます。流鏑馬の歴史・文化の普及・啓発という事業に取り組むことに対して特に反対はしませんが、本事業の目的がどこにあるのかということを知りたいところです。
- ・流鏑馬大会自体を観光資源として確立させ、八戸地域の活性化を図ろうということを目

指すのであれば、本当に壮大な目的だと思います。スポーツ流鏝馬から始めて、流鏝馬をそのような位置づけまで高めていくんだということであれば、少しストーリーがわかりにくいように思います。

- ・あとは、馬を借りたり連れてきたりというところで多額の費用がかかるため、予算の面で継続した開催がなかなか難しいように感じられます。十和田とは予算的な面で違いがあるでしょう。
- ・十和田は地元でできるから開催しやすいというところがあります。恐らく、回数も重ねることができるでしょう。
- ・あまり聞いたことはありませんが、八戸で馬に乗れるところはあるのでしょうか。実際、馬に乗りたいと思ったら、みんな十和田に行ってしまうように思います。

■事務局

- ・豊崎に馬に乗れるところがあります。
- ・市長が三社大祭のときに馬に乗るために、そちらで乗馬の練習をしています。

■委員

- ・このスポーツ流鏝馬に限った話ではありませんが、団体が普及に取り組んで行こうと思っても、会場となる神社などのバックアップを得られないとなかなか難しいのではないかという気がします。

■委員長

- ・予算的にも、継続した取組はすごく難しいように感じます。
- ・ワークショップにかかる費用はほとんど計上されておらず、流鏝馬大会の運営にほとんどの費用が充てられています。一度の流鏝馬大会の開催で予算のほとんどを消化してしまうので、次年度以降の継続は難しいように映ります。
- ・一度のイベントの開催で、どれだけ見込んでいる効果を出せるかというところは、質問して伺ってみたいと思います。
- ・それでは、仮採点第8位、八戸市に新美術館を熱望する市民の会の『みんなで八戸にふさわしい美術館を考えよう』について、事務局から説明いただきたいと思います。

仮採点8位 八戸市に新美術館を熱望する市民の会 ／みんなで八戸にふさわしい美術館を考えよう

■事務局

- ・プラス評価の意見として、
 - 新美術館の建設を広くPRする講演会を開催する事業であり、団体の新たな展開につながるものと思う。
 - 新美術館建設への熱い情熱を感じる事業である。
- ・マイナス評価の意見としては、
 - 参加費1,000円を徴収する講演会で、見込んでいる集客数を得られるかが疑問。
 - 美術に造詣が深いとはいえ、生理学者を招いて開催する一度の講演会で、新美術館設立について考えるという目的を達成できるとは思えない。ワークショップなどを開催する方が、目的に合致するのではないか。
 - 多忙であろう講師と会場となるホールとのスケジュール調整に不安を感じる。
 - 参加者が見込みより少なかった場合、どのように赤字を補填するつもりか。
 - 団体の目的である新美術館の建設促進に寄与するものとは思いますが、効果が何とも判断することができない。といった意見が挙げられております。
- ・質問事項としては、
 - 講演会開催後の活動はどのように考えているのか。今後の活動を継続していくのか、新たな活動の展開を考えているのか。
 - 目標達成後には団体を解散されるようだが、美術館ボランティア「ハビボ会」への合流等については検討していないのか。

という質問が挙げられております。

- ・また、アドバイスとして、
 - 新美術館が市民にとってどんな役割を果たすのかなど、地域住民にわかりやすい講演になることを期待する。
 - 新美術館はいずれ建設されるものと思うが、開館後、市民が安定的に足を運ぶような施設になるよう側面から支援をしていただきたいと思う。
- というものが挙げられております。

■委員長

- ・それでは、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。

■委員

- ・資料に記載されているとおりのことですが、1,000円でこんなに人数が集まるのかというところがすごく疑問に思います。見通しが立っているのかどうかです。
- ・無料であれば多くの人が来るとは思いますが、1,000円も払って500人も集まるとは思えないところがあります。

■委員長

- ・相当力技でないと難しいと思います。告知ではありませんが、いろんな方面に積極的に働きかけないとなかなか集まらないことと思います。皆さんも講演会の開催などを経験されていらっしゃると思いますので、非常におわかりかと思えます。参加費1,000円で500人集められるのかは私も心配するところです。

■委員

- ・八戸にふさわしい美術館を考えると、講師として考えられている方との関連性がしっくりきません。
- ・著名な方をお招きするという事はわかりますが、パネルディスカッションのようなものも行って、いろんな立場の人が新美術館の建設に向けてお話するののもひとつの方策かと考えます。

■委員長

- ・この講師が八戸にふさわしい新美術館についてお話をされるということでしょうね。何か少しもったいないような気がしますけれども。
- ・いろいろ多彩な方だということは資料も提出されていますのでわかるのですが、せつかく30万円という講師謝礼をお支払して、八戸市に来ていただけるのであれば、聞きたいお話は美術館のことではないという気持ちになってしまいます。

■事務局

- ・資料のほうにもありましたが、蕪崎のほうで個人の美術館を建設して運営されているので、そういった関係から機運を盛り上げようというお考えのようです。
- ・少し補足ですが、代表の漆畑さんという方はもともと獣医で北里大学のご出身だそうで、そのつながりでコネクションをお持ちだというお話はされていました。

■委員長

- ・〇〇委員からパネルディスカッションというお話もありましたが、お一人の講演だけで終わらせてしまうのはもったいないという気持ちもあります。
- ・講師の方のお話を聞きたい気持ちはやまやまなのですが、新美術館の建設に向けて機運を醸成しようという目的と団体の今後の発展という部分での関連性がみられるかどうか。事業の目的と団体の目的との関連性が出てこない、団体の今後の発展というところにつながりません。その点については、ご説明していただきたいと思います。

■委員

- ・講師の交通費として2名分想定されていますが、もう一方はどなたなのですか。

■事務局

- ・講師の先生とアシスタントの方で2人という積算になっています。

■委員

- ・30万円という講師謝礼が適正かどうかよくわかりません。

■委員長

- ・30万円くらいは恐らく必要になると思います。1時間半話して50万円というケースもまありますから。

■事務局

- ・代表の方も講師謝礼については相場がわからないというところもあってお悩みになっていましたが、先ほどご説明しましたとおり、大学のつながりということもありますので予定された金額で何とか頼みたいということでした。

■委員長

- ・今度ある団体で知事経験者をお招きして講演会を開催するのですが、恐らく30万円では呼べないと思います。50万円はかかっているのではないかと思います。講師の知名度からすると30万円という金額は少し安い気はします。
- ・講演会を一度開催して、その後の取組にどのようなようにつなげるかがないと少し厳しいように思います。
- ・講演会を否定するわけではなく、団体の目的と講演会開催後の取組につなげるために、今回の事業が必要だということところが非常に大事です。

■委員

- ・美術館は県ではなく、市で建設するのですか。

■事務局

- ・市に新美術館建設推進室という部署ができますので、建設する方向です。

■委員

- ・設計のコンペというような話も今後進んでいくのでしょうか。

■事務局

- ・そういう方向になると思います。

■委員

- ・団体の収支の見込書の中に「美術館デザインコンクール開催費用」とありますが、これは具体的な設計のことではないのですよね。

■事務局

- ・市民の皆さんで新美術館について考えようという内容になるかと思います。
- ・「美術館デザインコンクール開催費用」は、平成27年度に、新美術館の建設に向けて、どんな美術館がほしいかをテーマに小学校、中学校の児童・生徒を対象にコンクールを開催した際の費用になっています。団体の活動状況の資料として、コンクールのチラシも添付されています。

■委員長

- ・それではこちらもご意見を伺ったということで、以上とさせていただきます。
- ・それでは案件2から4に進みます。事務局から説明をお願いします。

案件(2) 平成27年度 市民提案制度 市設定テーマの結果報告

○事務局より、次の事項について説明。

- ・3月23日（委員会開催当日）、観光ネットワーク構築事業のパートナー協定調印式を実施し、市とはちのへ観光ネットワーク（菊池有紀代表）の間で協定書を締結。
- ・本協働事業は委託により実施されることになるため、パートナー協定とは別に両者の間で委託契約を結び、4月から事業に取り組んでいくこととなる。
- ・協定の締結以前に、4月からのスムーズな事業実施に向け、市とはちのへ観光ネットワークの両方で事業関係者に事業概要の説明と協力依頼を行っており、訪問した施設・団体からは概ね賛同を得られている。
- ・リストの作成については、青函DC前の6月頃の完成を目指す。
- ・デーリー東北で「はちのへ観光ネットワーク」の取組について菊池代表にインタビューを実施し、記事が掲載される予定となっている。

案件(3) 平成 28 年度 市民提案制度 市設定テーマの募集結果について

○事務局より、次の事項について説明。

- ・平成 28 年度の市設定テーマについて 2 月に庁内から募集したところ、建築住宅課から「地域連携型 空き家流通促進事業」の応募が 1 件あった。
- ・4 月以降、当該テーマを平成 28 年度の市設定テーマとして正式に決定し、6 月から 7 月頃に市民からの提案を募集する。

案件(4) 平成 28 年度 協働のまちづくりの推進にかかる事業について

○事務局より、次の事項について説明。

- ・「協働のまちづくりの推進にかかる事業」の平成 28 年度の予算、取組の方向性について説明。

次第 4. その他

○今後のスケジュールについて

○事務局より、次の事項について説明。

- ・平成 28 年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会
日 時 4 月 16 日 (土) 13 時 30 分～
場 所 市庁別館 2 階 会議室 C
- ・平成 27 年度 市民奨励金事業の評価
時 期 5 月上旬
※評価方法の変更案については、別途説明。
- ・平成 27 年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」
日 時 5 月 28 日 (土) 13 時～
場 所 八戸ポータルミュージアムはっち 1 階はっちひろば

○協働事業（奨励金制度・提案制度）の事業評価の方法変更について（案）

○事務局より、次の事項について説明。

- ・奨励金制度及び提案制度の実施事業の評価方法については、昨年度までは「事前評価」による各委員の個別評価実施後、協働のまちづくり推進委員会を開催し評価内容を確認していたが、今年度は委員会開催による評価を実施せず、個別評価のみの評価方法に改めたい。
- ・理由は次のとおり。
 - 各委員による個別評価のみでも、両制度の実施要領に規定する「事業評価」にあたるため。
 - 委員会の開催を省略しても、活動成果発表会の事前打ち合わせの場で評価の共有が可能のため。
 - 委員会開催に伴う委員の負担を軽減するため。
- ・変更に伴う留意事項については、次のとおり。
 - 報酬の取扱いについて
 - 奨励金制度及び提案制度活用団体に対する評価結果のフィードバックについて

- ・事業終了後の評価に関する話になります。
- ・これまで活動成果発表会の前に委員会を開催して評価を行ってまいりましたが、事務局より一堂に会さなくてもいいのではないかというお話がありました。
- ・お話を聞いて、確かにそのとおりだと思いました。
- ・事業評価は実際に活動したことに対して意見を述べて、団体の今後の活動に活かしていただくということが趣旨だと思いますので、それが達成されるのであれば他にも方法はあるのだろうと私も思いました。
- ・報酬については事務手続き的なことや他の附属機関との兼ね合いなどもあるでしょうから、私どもからは何とも言えませんが、評価方法に関しましてはどのような形式でもよいかと私は考えています。

■事務局

- ・先ほどの説明の補足になりますが、市役所ではたくさんの附属機関、いわゆる第三者機関を設置しております。各附属機関の開催回数を比較しますと、協働のまちづくり推進委員会の開催回数は多くなっており、委員の皆様へのご負担というものがほかの委員会に比べると大きくなっていることと思います。
- ・委員会として一堂に会さずとも、書類のやり取りやメールによるやり取りで事業評価を実施することが可能であれば、先ほどご説明いたしました方向で検討したいと考えておりますので、委員の皆様のお考えをお知らせいただければと思います。

■委員長

- ・私はこの委員会が初めてだったので、これが普通だと思って出席しておりましたが、実は全然違うということが後になってわかりました。開催回数は非常に多い委員会のようです。

■委員

- ・委員会を開催しての評価をしないとしても、ほかの委員の人たちの意見をまとめた資料は前もっていただければと思います。

■事務局

- ・その点につきましては、従来の評価方法と同様に、一度事務局においてとりまとめたものを委員の皆さんに御覧いただけるようにしたいと考えております。

■委員長

- ・今日ご用意いただいた各委員の意見等をまとめた資料を活動成果発表会の前にもらわないと、発表会のときに何もわからないという状況になりますので、事前に用意していただくことは必要でしょうね。

■事務局

- ・以前はとりまとめたものを委員会の資料としてご用意して、委員の皆さんに共有していただくという形式をとっておりましたが、活動成果発表会の事前打ち合せの場でも共有を図ることは可能ではないかと考えておりました。

■委員長

- ・評価方法の変更は今回からになりますか。

■事務局

- ・委員の皆さまからのご賛同が得られれば、先ほどご説明した今後のスケジュールの5月上旬の事業評価のところを、これまでの事前評価のスタイルで事業評価を行うという形式にできるかと思います。

■委員長

- ・委員の皆さんの合意が得られれば、今日のこの場で評価方法の変更を決めましょうという話になりますか。

■事務局

- ・ご意見をお伺いした上で決めたいと思います。報酬の取扱いの関係上、最終的には年度明けになってしまうかもしれませんが、改めてお知らせする形をとりたいと思っています。

■委員長

- ・〇〇委員は当委員会の設置当初から、〇〇委員も長い期間委員として御参画いただいて

おりますがいかがでしょうか。

■委員

- ・この方向性でよいと思います。

■委員

- ・ほかの附属機関は年に2回くらいですね。

■事務局

- ・開催回数は附属機関にもよりますが、協働のまちづくり推進委員会は非常に多いです。
- ・委員会設置当初はそもそも協働の理念がわからなかったということもあり、回数を重ねて協働に対する理解を深めていただくという考え方があったのかと思っております。

■委員長

- ・奨励金の交付前の審査につきましては、先ほど意見交換をしたように、事業とすれば成立するけれども会の目的や方向性と合致しているかということは、委員の皆さんの意見を突き合わせないとわからないところだと思います。
- ・ただ、事業実施後の評価に関しては、実施した事業内容に対して意見を付すものとなります。今回のように奨励金を交付する前に意見交換を行って、事業に対する評価の視点を一度つくっているのので、実施後の評価はやりやすくなっていると思います。
- ・ですから、わざわざ集まって意見交換するほどの必要性もないのかなという気がしております。私としては事務局から提示された方向性でもいいのかと考えておりました。

■委員

- ・開催回数が減るということは結構なことだと思います。

■事務局

- ・実施要領に定めておりますとおり、委員の皆さまには個別に評価の作業をしていただく必要はありますが、一堂に会するという機会を1回減らせればというところでの案でございます。

■委員長

- ・この方向性については、皆さんからご賛同いただいたという方向で一度まとめたいと思います。
- ・ほかに特になければ、今日の案件はこれで全て終了いたしましたので、議事を終了して進行を事務局にお返しします。

次第5. 閉会

(司会：事務局)

以 上